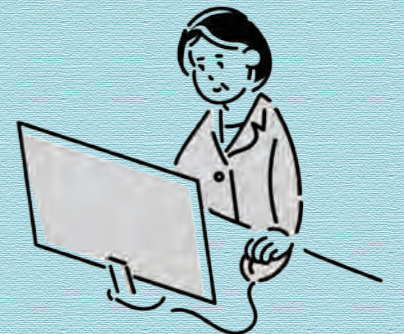
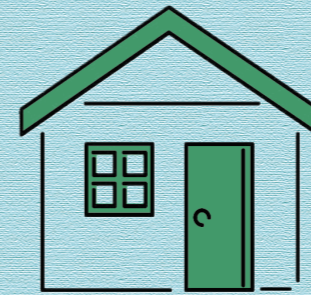
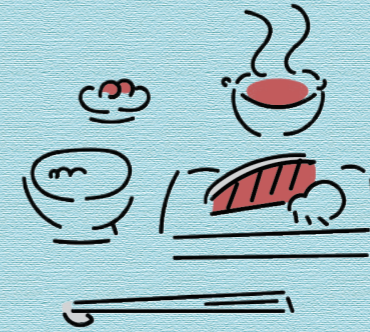
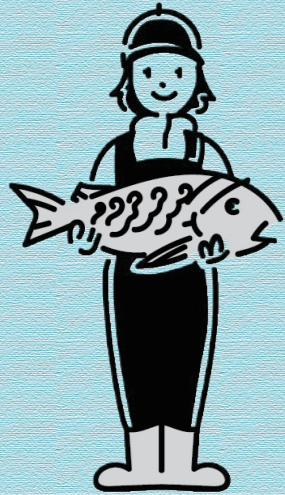
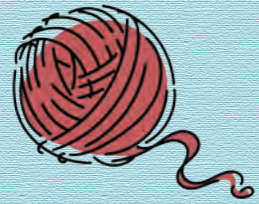


静岡県における

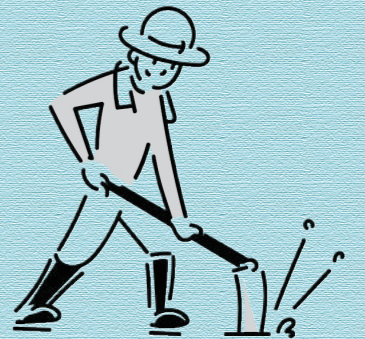
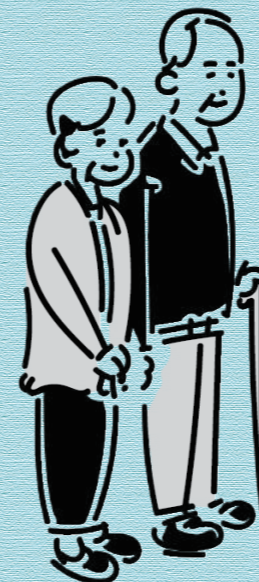
シニア世代男女の労働と生活実態調査



調査研究事業
 静岡県におけるシニア世代男女の労働と生活実態調査

発行団体 特定非営利活動法人
 静岡県男女共同参画センター交流会議
 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1
 Tel:054-250-8147 / Fax:054-251-5085

発行 令和 3年 1月



目次

はじめに	1
1 調査の概要 年齢(Q1) 性別(Q2) 居住地域(Q3) 世帯構造(Q4)	2-3
2 高齢者の有償労働(1) 働く高齢者の割合(Q9-1) 働く高齢者の年齢(Q9-2) 現在の仕事に就いた時期(Q13) 高齢者の仕事ベスト10(Q10) 雇用形態(Q11)	4-5
3 高齢者の有償労働(2) 週に何日働いているか(Q9-3) 仕事の内容(Q12) 何歳まで働きたいか(Q16) 仕事の満足度(Q15) 満足の理由 不満足の理由	6-7
4 高齢者の有償労働(3) 働く理由ベスト10(Q14) 現在働いていない理由(Q17) 「高齢者の有償労働」についての概要	8-9
5 高齢者の家庭内無償労働(1) 高齢者の家庭内労働の役割ベスト5(Q5-1) 家庭内労働役割の有無(Q5-2) 家庭内労働を始めた年齢(Q6-1) 家庭内労働をしない理由(Q8) 介護経験の有無(Q7-1) 誰を介護したか(Q7-2)	10-11
6 高齢者の家庭内無償労働(2) 何年介護をしたか(Q7-3) 「高齢者の家庭内無償労働」についての概要	12-13
7 高齢者の収入と生活事情(1) 高齢者の収入内訳(Q19-a) 高齢者の収入内訳・世帯別(Q19-b) 年金は十分だと感じるか(Q20-a) 年金は十分だと感じるか・世帯別(Q20-b) 第3号被保険者だった人は年金額についてどのように思うか(Q22)	14-15
8 高齢者の収入と生活事情(2) 毎月どれくらい年金があれば足りると思うか(Q21-a) 毎月どれくらい年金があれば足りると思うか・世帯別(Q21-b) 「高齢者の収入と生活事情」についての概要	16-17
9 高齢者の余暇活動と心の充実度 今、一番不安に思うこと・世帯別(Q23) 高齢者が現在行う余暇活動(Q24) 今、一番幸せだと感じる時(Q25) 「高齢者の余暇活動と心の充実度」についての概要	18-19
10 静岡県のシニア世代に聞く 田中政弘・きみ夫妻 黒柳千穂子さん 菅原賀志子さん	20-22
あとがき	23
調査アンケート表 奥付	24-25

付記 各項目の回答者数の表記方法および、参考資料の出典は以下の様に行った。
1. 有効回答数591人→n=591 2. 就労者全体数197人 →n=197 3. 単一回答→SA 4. 複数回答→MA 5. 自由回答→FA
※ベスト10など、全ての回答を表記しない場合は「少数意見は除く」とした。
概要の中で使用した参考資料 (1)-(8)の出典については、P23にまとめて掲載した。

はじめに

日本は、65歳以上の高齢者人口が推計3,617万人(総務省統計局2020年9月15日現在)と、総人口の28.7%を占める世界でも類を見ない超高齢社会です。また人口減少に伴い、働く高齢者も2004年以降、増え続け、2019年は892万人と過去最多となりました。これまで日本では、「引退」の言葉が示す様にサラリーマンは、60歳～65歳で職を辞し、その後は年金で余生を楽しむといった高齢者モデルが定着していました。一方で高齢者は、社会福祉予算を脅かす「負の存在」として語られることもあり、そこで最重要視されたのが年金制度改革と後期高齢者医療制度の見直しでした。その背景には、高齢者に「生涯現役」を促し、年金支給年齢の繰り上げを図ることで年金や医療費などの現役世代負担の軽減を図る狙いが見えます。

このように高齢者を取り巻く環境が大きく変化する2019年、静岡県男女共同参画センター交流会議(以下、あざれあ交流会議)は、これまで取り上げられることが少なかった高齢者労働と経済に着目して「静岡県におけるシニア世代男女の労働と生活実態調査」を行いました。本調査の対象に60-64歳を含めた理由には、高齢者の定義が65歳以上であるにもかかわらず、従来の定年制慣行に従い、多くの人が職を離れる動向に着目したことによるものです。

本調査は以下の4つの視点から県内に居住する高齢者のリアルな生活実態を明らかにすることを目的としています。

1. 65歳を過ぎた高齢者の働き方や働く理由を調査し、背景にある年金問題など、高齢者の経済事情を明らかにする。
2. 高齢者が家庭内で行う家事や介護などの無償労働の実態と性別役割から生まれる男女の家庭内労働格差について、男女共同参画の視点から明らかにする。
3. これまで医療費や年金の高騰を招く「社会的依存度の高い弱者」と見なされてきた高齢者が果たす社会的役割を明らかにする。
4. 高齢者が自立した人生を送る上でセーフティーネットとなる健康、年金、生きがい、家族、友人、地域などについて具体的に明らかにする。

本調査が提示する「等身大の高齢者像」がこれまで社会的に負の存在として捉えられがちであった高齢者を見直す機会となり、今後の高齢者政策や世代間格差是正の一助に役立てていただければと考えます。また日本において男女共同参画社会を実現するためには、何が求められ、何を変革しなくてはいけないのか、本調査から読み取っていただけたら幸いです。

1. 「シニア世代男女の労働と生活実態に関するアンケート調査」の概要

調査対象：静岡県内に居住する60歳以上の男女

調査方法：

①アンケート用紙の配布

配布先：あざれあ交流会議会員団体(静岡パパさんコーラス、一般社団法人国際女性教育振興会静岡県支部、静岡県女流美術協会、一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会)、静岡市内生涯学習センター ほか

②「あざれあナビ」にアンケートフォームを設置

アンケート配布数：830部

アンケート回収総数：669部(うち②による回収数3)

アンケート回収率：80.6%

有効回答数：591人(回答率88.3%)

実施時期：2019年1月～3月

2. 高齢者へのヒアリング調査の概要

調査対象：静岡県内3箇所に住む高齢者4人

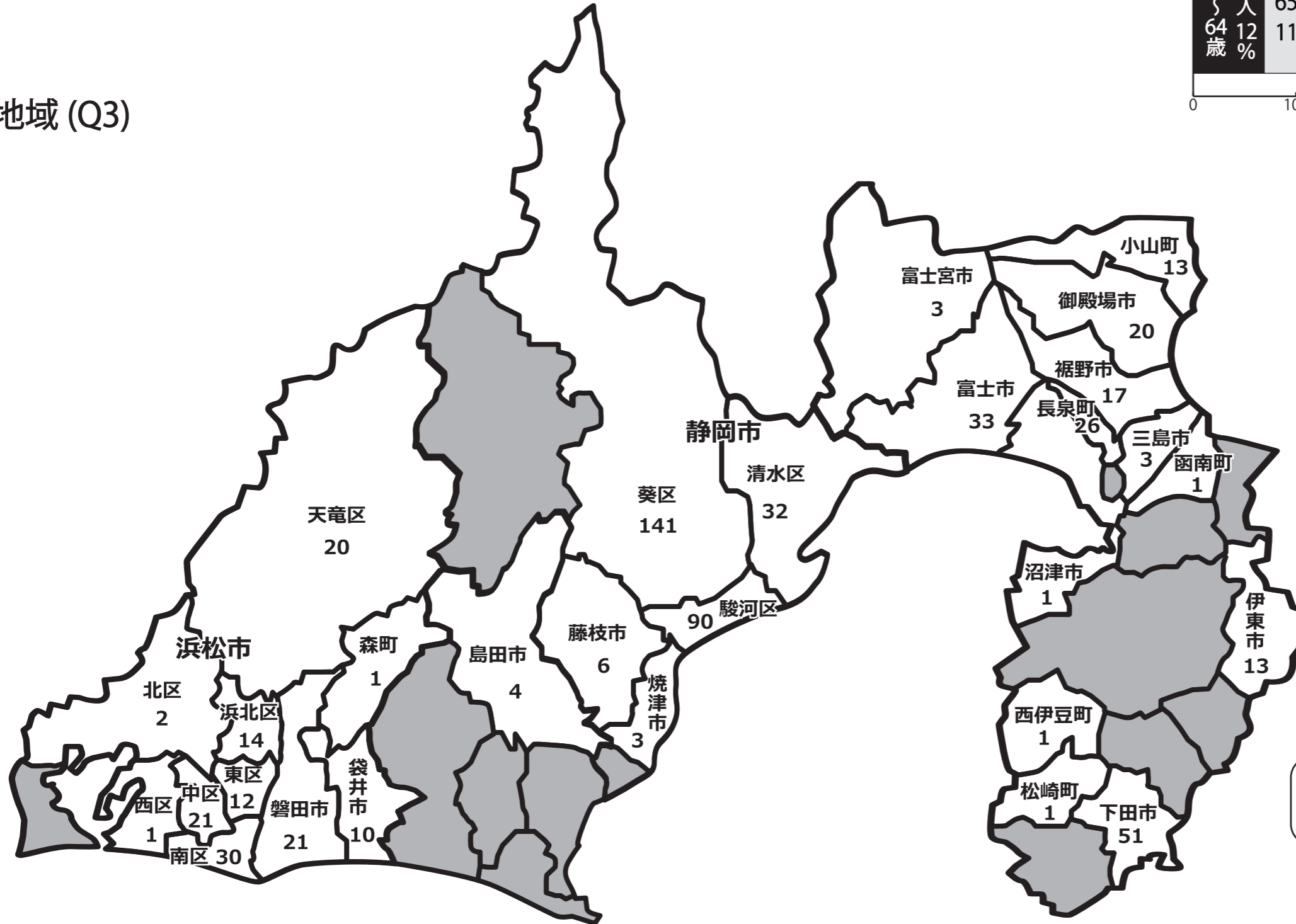
調査方法：訪問による聞き取り

実施時期：2019年8月～9月

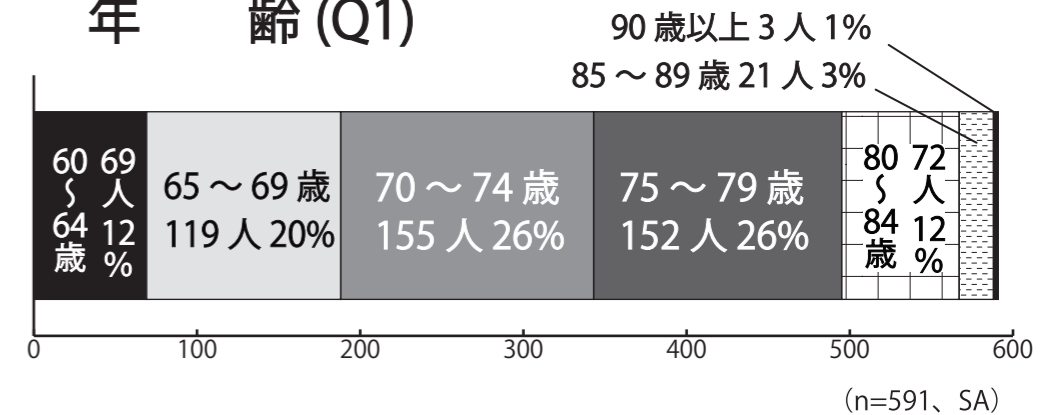
調査の概要

本調査に回答していただいた静岡県のシニア世代

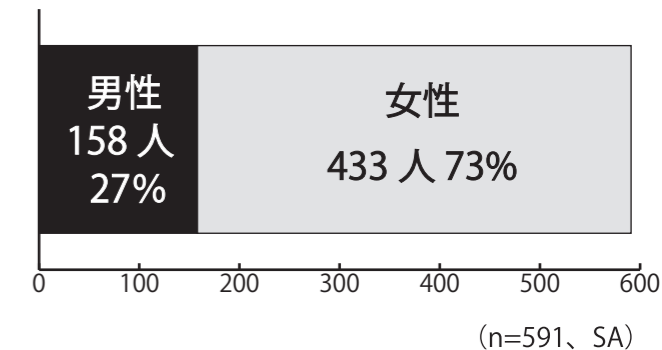
居住地域 (Q3)



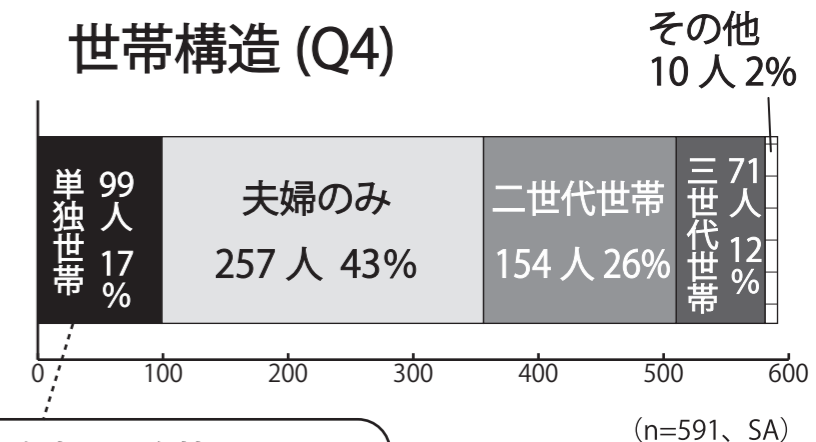
年齢 (Q1)



性別 (Q2)



世帯構造 (Q4)



男女内訳
女性 89人 15%
男性 10人 2%

*本調査の回答者591名の居住地は、静岡県35市町の21市町にわたる。ただし、静岡市263人、浜松市100人、下田市51人、富士市33人、長泉町26人、磐田市21人と、居住地域の回答者数に偏りが見られる。

*回答者の年齢は、60歳～64歳（69人）、65歳～69歳（119人）、70歳～74歳（155人）、75歳～79歳（152人）、80歳～84歳（72人）と、年齢分布に大きな隔たりが無く、前期高齢者と後期高齢者との世代間分析が可能となった。

*回答者の性別は、男性（158人）、女性（433人）と、全体の73%を女性が占める結果となった。

*回答者の世帯構造は、夫婦のみ世帯43%、二世帯世帯26%、単独世帯17%、三世帯世帯12%である。本調査では、世帯構造の特徴として、夫婦のみ世帯が全国平均（32.5%）より11ポイント高く、二世帯世帯は全国平均（19.9%）より6ポイント高い。また、単独世帯は、全国平均（26.4%）より10ポイント低い。また、女性の一人暮らしは男性の9倍と、圧倒的に高かった。

内閣府の「令和元年版高齢社会白書」によると⁽¹⁾、昭和55（1980）年当時の高齢者世帯は、三世帯世帯が一番多く、全世帯の半数を占めていた。しかし、平成29（2017）年は、夫婦のみの世帯が32.5%と一番多く、単独世帯と合わせると58.9%を超える。本調査でも全高齢者世帯の60%は、夫婦のみと単独世帯で占められるという結果となった。